

意見（永沢委員）

投資信託の運用報告書制度の見直しに関する意見・要望

2012年12月7日

『7・20緊急フォーラム』¹主宰者

永沢裕美子・島田知保・竹川美奈子

1. はじめに ～ 投信利用者が望む運用報告書とは

投資信託の運用報告書は、受益者がコストを負担し投信会社のスタッフの多大な労力と時間をかけて作成・交付されているにもかかわらず、ほとんどの受益者に読まれていないという現状があります。

私たちは、こうした現状を残念に思い、運用報告書の利用価値を高めるための提言をまとめた報告書²（以下、本報告書と記載）を8月中旬に金融審議会・投資信託及び投資法人法制の見直しに関するワーキング・グループの事務局と投資信託協会に提出させていただきました。

本報告書において、私たちは、事務局から提案のあった「運用報告書の二段階化」（運用報告書の全体版については、電子的な方法によって閲覧が可能な方法で開示し、必要事項を厳選し記載した簡易版の「交付運用報告書」のみ紙媒体で作成し、全ての受益者に交付するというという方向性）に基本的に賛成である旨を明らかにした上で、次の3点を要望しています。

- ① 運用報告書の全体版については、受益者・投資家の投資判断に資するような情報項目・内容の充実とともに、アクセスが容易な場所に開示されること
- ② 交付運用報告書については、投資信託の平均的な投資家が高齢者や一般に金融リテラシーが低い人であるという実状を踏まえ、そうした投資家でも読んで分かるものとなるよう、内容や説明方法、様式等の工夫を行なうこと
- ③ 受益者や投資家が運用の優劣をチェックするためには、ベンチマークとの比

¹ 7月に投信法WGが『中間論点整理』を行ったのを受けて、同WGの委員である永沢裕美子と島田知保、第一回WGのゲスト・スピーカーである竹川美奈子が発起人となり、個人投資家や運用評価機関、情報提供機関、ファイナンシャル・プランナー等に参加を呼びかけ、7月20日に『投資信託の情報開示のあり方を考える緊急フォーラム』を開催しました。

² 『7・20緊急フォーラム報告書 投信利用者からの提言 ～ わたしたちが望む運用報告書とは～』は、フォスター・フォーラムのホームページでご覧いただけます。（2012年7月の活動履歴：<http://www.fosterforum.jp/activity/project-updates/20120720>）

較はもちろんだが、他ファンドとの比較が可能となる必要がある。ファンド間比較が一般の投資家でもできるよう、リターン、リスク、コスト等の定量情報については計算や表示の方法を標準化すること

私たちは、本報告書において、運用担当者や投信会社に関する情報の法定書面上での開示が義務づけられることを望む声が多いことも指摘いたしました。また、目論見書と運用報告書は異なる法律に基づいて作成されているとはいえ、投資家から見ると、投信会社による運用計画の提案と結果の報告という関係にあり、両文書の内容の連続性をお願いしたいという要望も出しています。さらに、投資信託市場において投資家が合理的な商品選択を行うようになるためには、ファンド・アナリストやジャーナリスト、ファイナンシャル・プランナー等、投資家と投信会社との間に介在してファンド情報を一般の投資家にも理解できるような形に咀嚼して伝達する役割を担う専門家を育てていくことが肝要であり、そのために、これらの専門家が運用報告書に記載されるデータを容易に取得することができるような配慮が必要であるとの提言も行いました。

2. 交付運用報告書モデル案への評価と当局及び投信協会にお願いしたいこと

私どもの意見や提言等を踏まえ、投信法 WG 事務局において交付運用報告書のモデル案(第9回 WG にて配付された参考資料2)をご用意いただきました。事務局の皆様のご尽力に深く感謝を申し上げます。

このモデル案について、上記報告書の作成にご協力いただいた方々に、①高齢者や金融リテラシーの高くない平均的な投資家でも、読めるものか、②内容は分かるものか、③必要な情報が落ちていないか等の質問をさせていただきました。回答一覧については【添付資料1】をご覧ください。

その評価や感想を見てもみると、現行の運用報告書の多くが数字の羅列であることから「文字情報が加えられて読みやすくなった」「分かりやすくなった」という評価がある一方で、「文字が多すぎる」「用語が難しい」等の指摘がありました。また、モデル案はファミリー・ファンド方式を採用している投資信託を対象としていますが、投資信託が投資をしている複数のマザーファンドの運用情報については詳細に説明してあるものの、投資信託全体としてどのような

アセットクラスにどれだけ投資をしているのかが報告されておらないため、「投資の全体像が見えてこない」「自分がどのようなリスクに晒されているのかが把握できない」といった問題点の指摘もありました。現在販売されている投資信託の過半がファンド・オブ・ファンズやファミリー・ファンド方式を採用しており、多層構造化した投資信託が一般の投資家に販売されている現状に鑑みると、これらの形態のファンドについて、実質的にどのような投資状況になっているのかが投資家に分かるように表示するよう義務づけることも必要と考えます。

要望の多かった投信会社情報については、現状でも有価証券届出書・報告書で開示されていますが、大半の投資家は EDINET へのアクセスが難しいという問題があります。この点、第 11 回 WG にて、事務局より有価証券届出書及び有価証券報告書の提出の見直しとして報告書代替書面制度の提案³が行われ、これにより、投信会社（委託会社）情報がインターネット（各社のホームページ上）で公表され、一般の投資家でもアクセスが容易となることが期待されます。投資信託の投資判断には投信会社の経営状態等に関する情報が必要不可欠であるという私どもの主張をご理解いただき、目論見書や運用報告書での情報開示を補完する方法を工夫いただきましたことを、高く評価したいと思います。投信協会及び投信会社各社におかれましては、インターネット上で分かりやすく比較しやすい投信会社情報の開示を工夫・検討いただくようお願いいたします。

また、運用コストのファンド間比較を可能とするために、欧米の投資信託で開示されているトータル・エクスペンス・レシオに相当するデータの開示を求める声が強くありました。この点についても、モデル案では要望に応じて各費用項目のパーセンテージ比率が記載され、前進したという評価の声もありますが、「保管費用等」の「等」に何が含まれるのかの開示が必要であるという指摘もありました。監査費用や運用報告書の作成費用等の情報は欧米の投資信託においては開示が行われていることや、これらの費用を信託報酬から支弁している投信会社もあれば信託報酬外で支弁している会社もあり、会社によって処理方法が異なることが要望の背景としてあるようです。

運用担当者に関する情報開示については、目論見書で開示を行った上で変更があった場合に運用報告書でも報告するという方法が望ましいと考えます。運用担当者の氏名の開示については業界の抵抗が強いと聞いておりますが、20

³ 第 11 回 WG（10 月 26 日開催）事務局説明資料 12、14 ページ。

08年3月に投資信託協会がまとめた『投資信託懇談会報告書』⁴の中ですでに以下のような指摘が行われています。同報告書の公表から5年を経過しようとしている今、こうした指摘を踏まえて業界全体で真摯にご検討いただければ幸いです。

「投資信託の購入を検討している家計にとって、過去の運用パフォーマンス情報だけではなく、ファンド・マネージャーの能力を代弁する経歴やこれまでの実績等に関する情報は重要な判断材料の一つである。例えば、ファンド・マネージャーの経験年数に関して容易にアクセスが可能であれば、家計が投資信託を選別しやすくなるのではないか。また、運用会社のファンド・マネージャーに対する報酬体系についての考え方を開示することは、利益相反の抑止に寄与し、投資信託が受益者である家計の利益を第一の目的として運用する姿勢の強化につながるものである。それゆえ、運用会社は、このような情報の効果的な開示方法についても検討していくことが望ましい。」（『投資信託懇談会』報告書14ページより抜粋）

投資信託の投資家は実に多様であり、早計に「運用報告書はこうあるべき」ということを申し上げることは難しく、多くの投資家・利用者の意見を聴きながら改善をすすめていくことが肝要と考えます。その際、投資判断に必要な情報とは何かを、投資家や投信会社だけでなく資産運用の専門家等の有識者の参加も得て検討を重ねた上で、法規制で大枠を定めていただき、最低限必要な項目については開示が義務づけられるようにしていただくことが投資家保護上必要と思います。一方、細目や表示方法等については、投資対象や手法、一般投資家の金融リテラシー等に応じて開示の在り方を検討していく必要があり、ルールの見直しの迅速性、柔軟性の点から業界の自主規制に委ねるのも一法ですが、その際にも、外部の専門家等の有識者の参加が不可欠であり、支障のない範囲で検討過程が開示されることが、投資家からの信頼を得るためには必要と考えます。

3. 最後に

運用報告書は、投信会社が全ての受益者に交付するものであり、コミュニケーション・ツールとしてもっと戦略的に活用していただくことを投信会社各社

⁴ 同報告書については投資信託協会のホームページ <http://www.toushin.or.jp/topics/2008/468/>

にはお願いしたいと思います。受益者が投信会社から聞きたいのは、運用結果の数字はもちろんですが、受益者（顧客）目線に立った、納得できる説明です。そんな思いから、『7・20緊急フォーラム』の参加者有志で、参加者の意見や提言を踏まえて「利用者の提案する交付運用報告書案」（【添付資料2】）を作成してみました。実務的に難しい点等も多々あると思いますが、これをたたき台にして、多くの投資家や専門家、事業者の方々に参加いただき、望ましい運用報告書のあり方、さらには情報開示のあり方についての議論が広がり深まっていくことを期待しています。

以上

【添付資料1】事務局モデル案に対する利用者アンケート回答一覧

【添付資料2】利用者の提案する交付報告書案（FoFs型、日本株型）

★この意見・要望書に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

永沢裕美子（フォスター・フォーラム事務局長）

yumiko.nagasawa59@gmail.com

＜アンケート結果一覧＞															
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	
①	一般的な受益者にとって読みやすいものとなったか	はい	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	
⇒ 理由または改善提案			交付運用報告書の意義などが表紙等に記載されると読みやすくなるのでは？	従来のものより文字数が少なく読みやすい。		量が減った。信託報酬等のコストが比率で示されたのは大きな前進。ただし、改善希望あり。受益者に「伝える」姿勢が欠けている。平易なことばと文章にする必要がある。	文字が多すぎる		量が多い。目次やサマリーがなくて全体像が分かりにくい。専門用語が多い。		文字情報が多すぎる。事実関係を淡々と記載しているだけでは読みにくい。グラフを用いて説明する工夫が欲しい。投資者に語りかけるような文体、Q&Aを用いて、何がポイントなのか分かるよう工夫してはどうか。	一般的な受益者は最初の数ページしか読まないことを想定2ページに要約やQ&Aでポイントを絞った説明を掲載してはどうか。	現行の報告書よりは読みやすいが、受益者に対する報告、今期の状況について伝えようという記載にはなっていない。	文字量が多い。株式の報告書を参考にししてほしい。	
②	一般の受益者でも分かるものとなったか	はい			いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	
⇒ 理由または改善提案			分配金原資について、一般受益者にも分かるような用語を用いて説明することが必要と思う。		高齢者には難しいと思う。		ファンド全体の資産配分、地域配分、通貨配分が示されていない。これらを提示してくれないと、投信会社は運用全体を把握できていないのか不安になる。	報告書の内容が分からなくても買ってしまうことに問題があるのでは？	専門用語や相場用語が多く投資経験のない人には理解が難しい。費用明細の開示方法は分かりにくく、一層の改善が必要。	マザーファンドでの説明は投資家には意味がない。そもそもマザーファンドの意味を分かっている投資家がどのくらいいるのか？	上記①の質問に対する回答と同じ。加えて、運用の全体像が分かりづらい。例えば、ファンド全体でみた組入資産の配分、個別投資割合、通貨別投資割合等の推移を示してほしい。グラフを使うとより分かりやすい。	難しい専門用語が多い。	今期の成績、運用担当者がとった行動と成績との関係を中心に記述してほしい。当局案は市況の説明が中心。当該投信について説明してほしい。	一般の投資家は知らない専門用語、市況用語が多すぎる。	
③	現行の運用報告書を読んでいる受益者にとっても満足できるものか？	いいえ		いいえ	いいえ		いいえ	はい	はい	いいえ			いいえ	どちらともいえない	
⇒ 理由または改善提案		運用者・体制の変化、設定・解約状況の推移が欠けている		ベビー・ファンド(全体)ベースでの3資産の寄与(寄与率)の数字が欠けている。	投資家のリテラシーや目的にもよるが、中途半端。		ただし、全体版に詳細な情報開示がおこなれることが前提。	最低限の情報は記載されていると思う。	当期以外の各年毎の運用実績も記載してほしい。		簡素化のためには記載情報を少なせざるをえないので、ある意味、やむを得ない。上記②の質問の回答に記載したような情報は載せてほしい。		②と同じ。コストはトータル・エクスペンス・レノオと同じか？「保管費用等」に何が含まれているかが分からないので、そこをはっきりしてほしい。	どちらともいえない	
④	交付運用報告書に記載すべき項目(情報)でモデル案では漏れているものはあるか？	運用者・体制の変化、設定・解約状況の推移					全てのコストが開示されているのか。「保管費用等」の「等」に何が含まれているのか開示してほしい。分配原資の要素等月次レポートで開示している情報を運用報告書でも開示してほしい。	運用会社、運用チームの情報	なし		純資産総額の推移(基準価額のグラフ)に追加できる。「全保有銘柄は全体運用報告書に開示されている」旨の説明が必要。		現行の運用報告書に記載されている設定求の運用実績(基準価額・純資産総額・ベンチマークの推移等)、期中の騰落率だけではなく決算時点における過去6か月・1年・2年・3年…設定求の騰落率。そのファンドの過去の運用実績をチェックする上で有用な情報である。	運用会社、運用体制、運用担当者が変わった時には運用報告書で開示してほしい。その前提として、目録見書やHPでこれら情報は開示が必要。ツ新協会のHPに、投信の特徴として「プロに運用を任せられる」と記載しているのだから、任せる相手をきちんと公開することが望ましいと思う。	組入銘柄は全銘柄開示が原則。例外的に一部の開示でいいとするが、場合も資産の7割以上とカテゴリーを定めるべき。
⑤	現行運用報告書制度では記載は義務づけられていないが記載を義務づけるべき項目(情報)は？	運用者・体制の変化、設定・解約状況の推移					トータル・リターンと分配原資、それぞれへの「寄与率」を掲載してほしい。	運用会社の行政処分の有無等の情報。マザーファンド、サブファンドを組入れている場合はその規模に関する情報は最低限必要。	運用結果を客観的に判断するためには、ベンチマーク等のわかりやすい参照指標との比較が必須と思う。参照指標を明示させた上で、乖離の理由開示を義務付ければ、極論すれば、その比較とその乖離理由のみを表示させるだけで運用報告の基本的内容としては十分と思う。		純資産総額推移と総経費比率			運用担当者の変更情報や受益者数の推移。議決権の行使等についても開示が望ましい。	
⑥	その他、意見や提案	運用報告書を義務付けてほしい。報告会の様子を動画配信してはどうか。					一般の投資家は自分のお金がどうなったかを知りたいという目線でお願いします。	定量データは協会が開示ルールと表記方法を定め、ファンド間の比較を容易にしてほしい。高齢者でも読める・読む気になる活字、文体、用語を用いる努力を。外国籍投信についても国内投信と同様の開示ルールを。開示できない場合はその旨の記載が必要。	一般の受益者でもファンド間比較ができるよう、基本情報をまとめた一覧表を交付運用報告書に記載するよう義務づけてはどうか。		読み手の視点に立って、流れ(目次→要約文→本文)やレイアウトを工夫してほしい。専門用語や相場用語を一般用語に置き換えることを推奨して欲しい。	最初のページに運用担当者の署名入りの総括文を記載するのが望ましい。	株式の報告書や欧米の投信のアニュアルレポートを参考にしほしい。文字が小さすぎます。		

↓ファンドの基本情報をおさらい

<ファンドDATA>

- 運用開始日
- 純資産総額
- 主な投資対象
- 運用方針
- リスクとリターンの要因
- 運用担当者／チーム
山田さん(リーダー、●年から担当)

注：本案は今後議論される全体運用報告書において、現行の運用報告書で開示されている情報が不足なく公開されることを前提として、交付版運用報告書を簡易化することに賛成して作成された。今後、詳細版の議論の動向によっては、開示すべきとする内容が変更されることもある。

(2012年12月1日現在)

この投資信託をお持ちの皆様へ

世界資産分散ファンド

追加型投信／内外／複合資産

【交付運用報告書】

↓会社・運用者からのメッセージ

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、「世界資産分散ファンド」は去る6月10日に3回目の決算を迎えました。保有者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、ここに第3期のご報告を申し上げます。

運用を開始した2009年から2012年6月10日の決算まで3年間は、.....

.....分散投資は、長期で資産形成を行なうのに適した投資方法です。今後とも運用チームは、各資産のポートフォリオの検証と、より効率的な資産配分をめざして、堅実な投資をおこなって参ります。

投資家のみなさまには、短期での値動きに翻弄されず、引き続き当ファンドを資産運用のツールとしてご活用いただき、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

運用報告書 第〇〇期

決算日 2012年〇月〇日

よりくわしい運用報告書は下記でご覧いただけます。

<http://www.xxxxxx@xx.xx>

〇〇投信株式会社



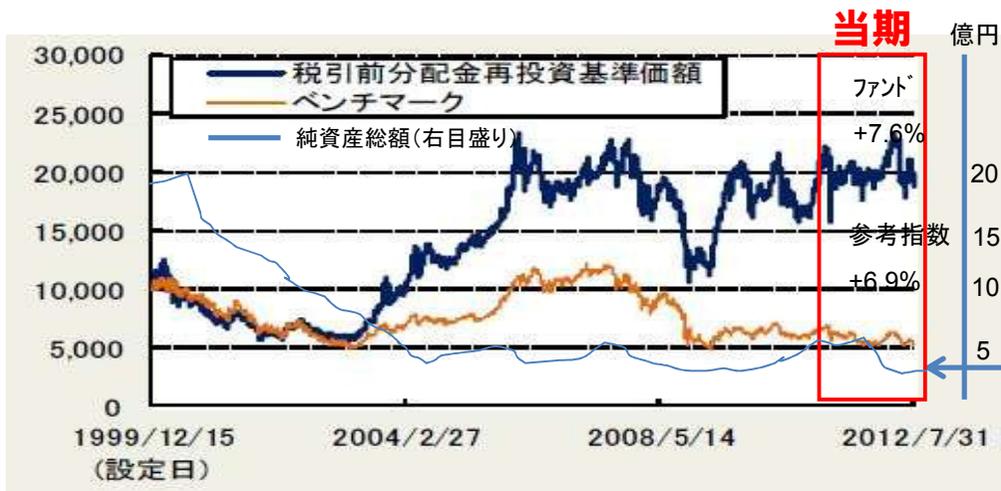
京都千代田区〇〇1-1-1
お問合せ先(お客様センター)
0120-123456

Q 今期の成績はどうだったの？



A. 前の期に比べて+7.6%の上昇

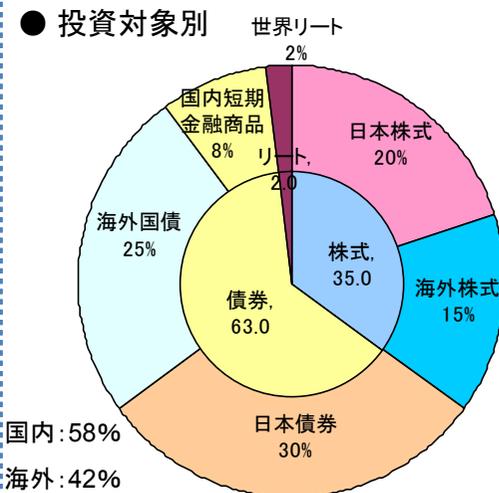
●●●●● 市況の説明中心ではなく、ファンドの運用成績。



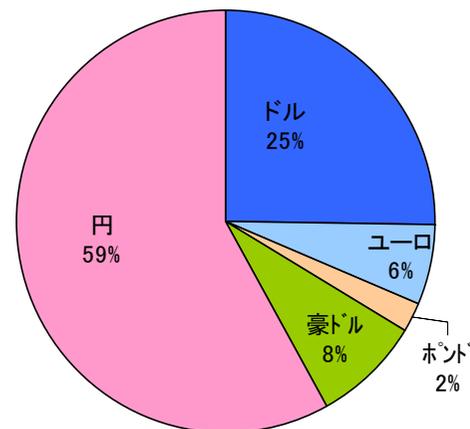
Q その理由を教えてください

●ファンドの今期末の中身は...

●投資対象別



●投資通貨別



【市況】

- プラス要因
- マイナス要因

【成功・失敗した理由】

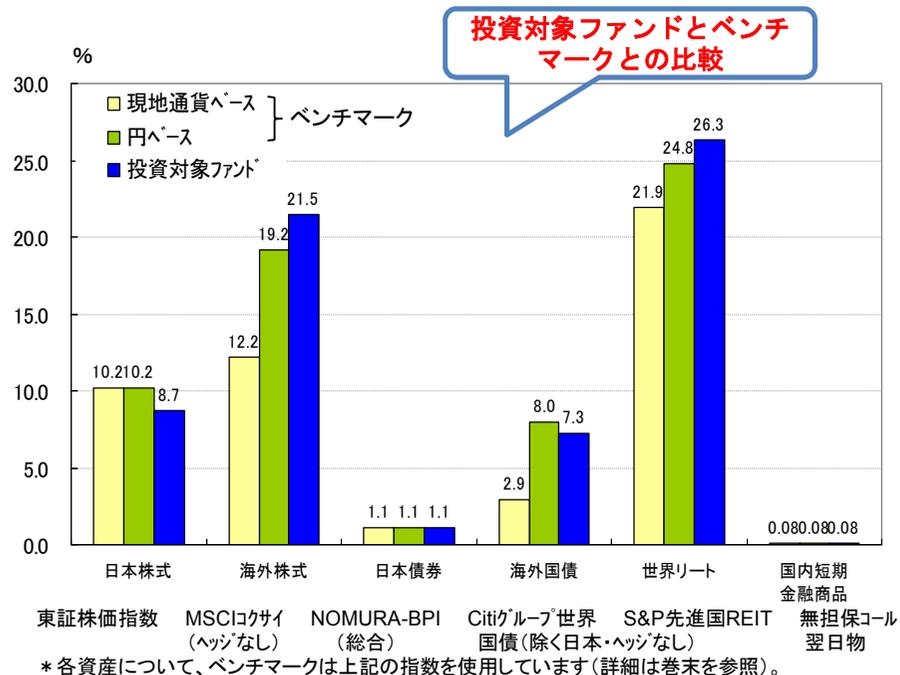
- 組み入れファンド選択
- 資産配分
- どのような行動が寄与したかなど

純資産総額も入れる

← 分配金または分配率も入れる

期間	2009年	2010年	2011年	年初来
運用実				
ファンド	27.69	0.8	-1.26	2.75
参考指数	25.33	1.0	-4.31	3.14
分配金(年額・円)	50.0	0.0	0.0	15.0
純資産(年末・億円)	120.4	186.9	153.7	195.2

● 主要市場の指数と、今期の組み入れ資産別の運用成果



【日本株式ファンド】

各投資対象ファンドごとの今期の運用内容。何をしたか、何が良かったかどうか
 (アクティブ運用の場合)

【海外株式ファンド】

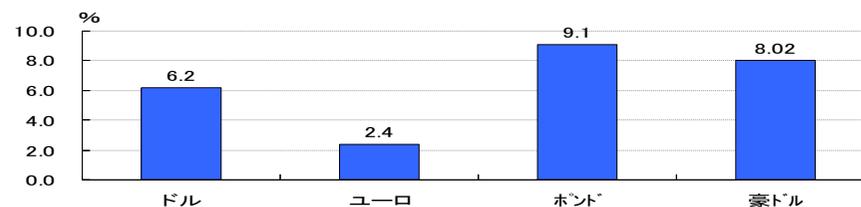
【日本債券ファンド】

【海外国債ファンド】

【世界リートファンド】

【為替】

● 今期の為替:円に対する騰落率



● 組み入れ投資信託	組入れ比率	期中騰落率	期中分配率
【国内株式】	20	10.2	0
〇〇日本株オープンF	20	10.2	0
【海外株式】	15	19.2	1.2
(米国) 〇〇米国株式F			
〇〇アメリカ成長株F			
(欧州) 〇〇欧州優良株F			
(アジア太平洋) 〇〇オーストラリア株式F			
【国内債券】	30	1.1	1
〇〇日本債券F	30	1.1	1
【国内短期債券・短期金融商品】	8	0.08	0
〇〇マネーファンド	8	0.08	0
【海外国債】	25	8	4
(米国) 〇〇米国国債F			
(欧州) 〇〇欧州国債F			
(アジア太平洋) 〇〇豪ドル建て国債F			
【世界リート】	2	26.3	20
〇〇世界REITファンド	2	26.3	20

【組み入れ投資信託の寄与度、成否など】

ファンド・オブ・ファンズとしての運用について、今期の説明と各組み入れ投資信託の寄与度・評価。
毎月決算型であれば、分配方針と各資産の寄与度なども。

【資産配分】

今期の資産配分の戦略と動き。それが良かったかどうか。

Q 今期何か変化はあった？

【前期と今期で何か変わったの？】

- ー運用上の変化(ポートフォリオの変化など)
組み入れファンドの変更とその理由
投資対象比率の変更とその理由など

※組み入れ全銘柄については
くわしい運用報告書をご覧ください
<http://www.xxx@xx.xx>

- ー運用会社、
運用担当者・チームの変化
○月○日◇◇投信と△△
アセットマネジメントが合併し
て、○○投信となりましたなど

- ーその他の変化
決算日が変わった
愛称がついた、など

<ファンドDATA>

- 運用開始日
- 純資産総額
- 運用担当者/チーム
山田さとし(リーダー、●年
から担当)

【DATA】 運用実績

●トータルリターン

世界資産分散ファンド	0.0%	0.0%	0.0%
●組み入れ投資信託	6カ月	1年	3年
【国内株式】			
○○日本株オープンF	0.0%	0.0%	0.0%
【海外株式】			
(米国) ○○米国株式F	0.0%	0.0%	0.0%
○○アメリカ成長株F	0.0%	0.0%	0.0%
(欧州) ○○欧州優良株F	0.0%	0.0%	0.0%
(アジア太平洋) ○○オーストラリア株式F	0.0%	0.0%	0.0%
【国内債券】			
○○日本債券F	0.0%	0.0%	0.0%
【国内短期債券・短期金融商品】			
○○マネーファンド	0.0%	0.0%	0.0%
【海外国債】			
(米国) ○○米国国債F	0.0%	0.0%	0.0%
(欧州) ○○欧州国債F	0.0%	0.0%	0.0%
(アジア太平洋) ○○豪ドル建て国債F	0.0%	0.0%	0.0%
【世界リート】			
○○世界REITファンド	0.0%	0.0%	0.0%

●リスク (標準偏差。3年以上は年率換算)

	6カ月	1年	3年	5年	10年
ファンド	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
参考指数	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

* 参考指数は、各市場の動きを表す代表的な指数を合成して運用会社が作成。

【組み入れ上位投資信託の保有上位銘柄】

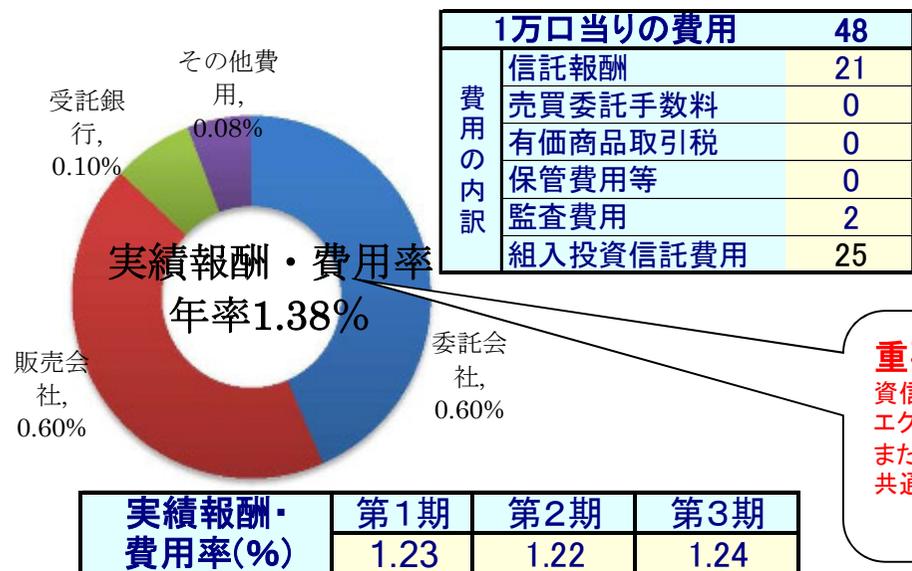
● 組み入れ上位銘柄	株数	評価額	組み入れ比率
〇〇日本株オープンF			
1			
2			
3			
4			
5			
【海外株式】			
〇〇米国株式F			
1			
2			
3			
4			
5			
〇〇アメリカ成長株F			
1			
2			
3			
4			
5			

⋮

(↓シンプルなアクティブ株式投資信託
などでは、全銘柄の開示が望ましい)

【スペースがあれば分散投資や組み入れ資産についてや、運用時の銘柄選択方法、為替の見方など、投資した投資信託に関する興味を引く基礎的なコラムなど。】

●今期どのくらい手数料がかかった？



過去3期分程度は掲載 ↑

●分配金の内訳(1万口当り)

分配金15円の内訳	分配金額	分配金に対する比率
インカム (配当金など)	5円	33.3%
キャピタル (値上がり益など)	8円	53.3%
その他 (準備金・繰越など)	2円	13.3%

※ 次期繰越金620円

↓できればファンドの分配15円に対していくらかも

【分配への寄与上位投資信託】

	Aファンド	Bファンド	Cファンド
インカム (配当金など)			
キャピタル (値上がり益など)			
その他 (準備金・繰越など)			
同期間のトータルリターン			

【今後の方針】

ー運用方針

横に純資産に対する比率も記載されるとさらによい。

重要: ファンド・オブ・ファンズの場合も投資対象とする投資信託のコストも含めた総合的な経費(いわゆるトータル・エクスペンス・レシオ)を概算でも把握する必要がある。また、他の同種の投資信託との比較を可能とするために、共通の計算方法による経費率を開示する必要がある。

重要: 欄外に、繰越しとするインカム収益を掲載。

組入れ投資信託からの分配金、投資対象とする仕組債の金利収益などが、ファンドの分配金に貢献した貢献度(寄与度)なども開示される必要がある(投資対象とする海外投資信託を通じた分配金がブラックボックス化することを防止するため)。詳細が不可な場合でも合計額ベースでの按分は可能ではないか。

ー分配方針

背表紙

【今後の方針】

－運用方針

－分配方針

↓ファンドの基本情報をおさらい

<ファンドDATA>

- 運用開始日
- 純資産総額

- 主な投資対象

- 運用方針

- リスクとリターンの要因

- 運用担当者／チーム
山田さとし(リーダー、●年から担当)

注：本案は今後議論される詳細版運用報告書において、現行の運用報告書で開示されている情報が不足なく公開されることを前提として、交付版運用報告書を簡易化することに賛成して作成された。今後、詳細版の議論の動向によっては、開示すべきとする内容が変更されることもある。

(2012年9月〇日現在)

この投資信託をお持ちの皆様へ

●●日本株ファンド

追加型投信／国内／株式

【交付運用報告書】

↓会社からのメッセージ

受益者の皆さまへ

たくさんの投資家のみなさまに支えていただき、「●●日本株ファンド」はこの度10回目の決算を迎えることができました。心より感謝申し上げますとともに、ここに第10期のご報告を申し上げます。

運用を開始した2002年から2012年6月10日の決算まで10年の間には、実に様々なできごとがありました。日本の株式市場もITバブルの崩壊、サブプライムショックに続く世界規模の金融危機、そして東日本大震災など、苦難の時期が続きました。そのような投資環境で、皆様が変わらず「●●日本株ファンド」を保有し、投資をしてくださっていることは………

……………日本には、世界をリードし、新興国の発展に寄与する、競争力がある企業もあります。それらの企業の中から、持続的な成長をとげる可能性を持ち、かつ企業本来の価値よりも割安に放置されている銘柄をていねいに発掘して投資をおこなって参ります。

投資家のみなさまには、引き続き当ファンドを資産運用のツールとしてご活用いただき、末永いお付き合いをお願い申し上げます。

運用報告書 第10期

決算日 2012年〇月〇日

よりくわしい運用報告書は
下記でご覧いただけます。

<http://www.xxxxxx@xx.xx>

〇〇投信株式会社



京都千代田区〇〇1-1-1
お問合せ先(お客様センター)
0120-123456

日本株ファンド 第10期 交付運用報告書 〇〇投信

Q 今期の成績はどうだったの？

Q その理由を教えてください



A. 前の期に比べて+5.2%の上昇

●●●● 市況の説明ではなく、運用成績についての解説

●

●

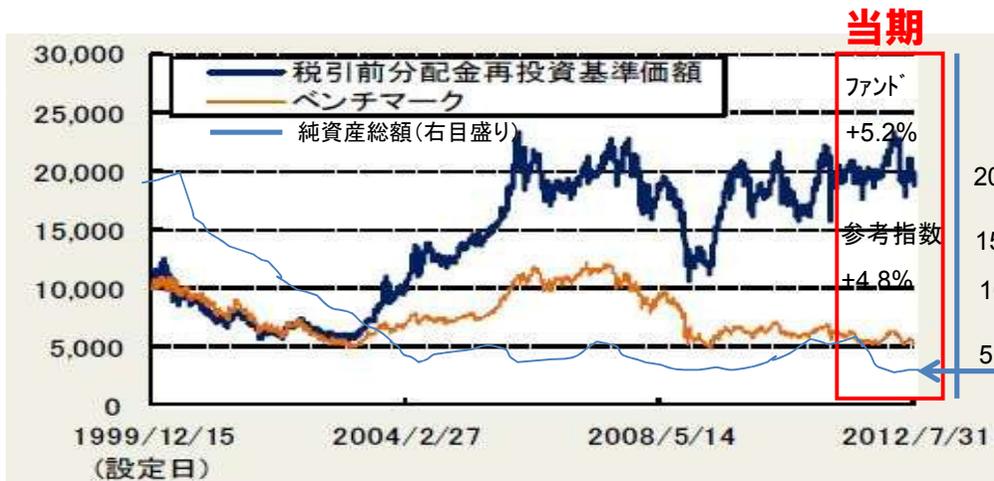
●

●

●

●

●



	期 間	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	年初来
運用実績 (%)	ファンド	48.3	2.8	-15.7	-53.2	12.1	0.8	-17.3	3.6
	参考指数	45.2	3.0	-11.1	-40.6	7.6	1.0	-17.0	3.1
分配金 (年額・円)		150.0	30.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	30.0
純資産 (年末・億円)		180.6	147.2	97.3	42.8	45.7	38.9	29.2	27.3

*2012年は2011年末から決算日までを年初来として掲載しています。

【市況】

- プラス要因
- マイナス要因

【成功・失敗した理由】

- 銘柄選択
- 売買
- どういう行動が寄与したのか？

純資産総額も入れる

分配金も入れる

Q今期何か変化はあった？

【前期と今期で何か変わったの？】

ー運用上の変化(ポートフォリオの変化など)
新たに組入れた代表的銘柄とその理由
売却した代表的銘柄とその理由など

さらに初心者にわかりやすい表記で、他の投資信託と比較できる統一された開示方法があれば、標準偏差にこだわるものではないが、誤解を生まないシンプルな表記がよい

<ファンドDATA>

- 運用開始日
- 純資産総額
- 運用担当者/チーム
山田さとし(リーダー、●年から担当)

ー運用会社、
運用担当者・チームの変化
○月○日◇◇投信と△△
アセットマネジメントが合併して、○○投信となりましたなど

ーその他の変化
ファンドに愛称がついた
決算日が変わったなど

総経費率(いわゆるトータル・エクス Pens・レシオ)を、他の投資信託と比較可能な統一された計算基準で開示する

【DATA】 運用実績

●トータルリターン (分配金を含む、この期間の損益)

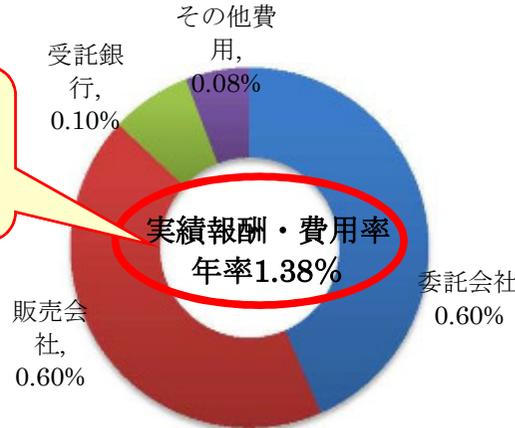
	6カ月	1年	3年	5年	10年
ファンド					
参考指数					

●リスク (標準偏差、3年以上は1年あたり)

	6カ月	1年	3年	5年	10年
ファンド					
参考指数					

●今期どのくらい手数料がかかった？

1万口当りの費用		53円
費用の内訳	信託報酬	48
	売買委託手数料	2
	有価商品取引税	0
	保管費用等	1
	監査費用	2



●分配金の内訳(1万口当り)

分配金 30円の内訳	分配金額	分配金に対する比率
インカム (配当金など)	7円	23.3%
キャピタル (値上がり益など)	18円	60.0%
その他 (準備金・繰越など)	5円	16.7%

※ 次期繰越金180円

実績報酬・費用率(%)	第8期	第9期	第10期
	1.37	1.38	1.38

過去3期分程度は掲載 ↑

日本株ファンド 第10期 交付運用報告書 ○○投信